

平成 27 年度 文部科学省「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」

アニメ・マンガ人材養成産官学連携事業

マンガ職域プロジェクト(1)

指導力評価指標：

指導者人材養成と認定の方法、マッチングの

評価指標(指導者認定)

報告書

- ◆デジタル作画を指導するマンガ専門高等教育機関教員の養成方法、
漫画家の指導者としての養成方法、教員・講師としての漫画家とマンガ専門高等教育機関との
マッチングの調査検討報告書
- ◆指導者人材養成と認定の方法、マッチングの評価指標（指導者認定）開発報告書

アニメ・マンガ人材養成産官学連携コンソーシアム

代表機関：学校法人片柳学園 日本工学院専門学校

指導力評価指標：指導者人材養成と認定の方法、 マッチングの評価指標（指導者認定）

はじめに：

指導力評価指標：指導者人材養成と認定の方法、マッチングの評価指標（指導者認定）について

コミックの出版社等は、東京に集中し、このため多くの漫画家も東京に在住している。漫画家の約半数のデジタル作画の習得のニーズも主に東京に多いといえる。

一方、マンガ専門高等教育機関は東京のみならず、多くが地方に立地し、これらの教育機関では『デジタル作画の指導ができる』教員が不足していることが、昨年度の調査で明らかになった。

教育機関では、『デジタル作画の指導ができる』教員の養成が急務になっており、そのためには指導力の評価の指標が必要とされている。

また教育機関の指導者を補うためには、プロの漫画家のデジタル作画学習普及を進めるとともに、このプロの漫画家に対して、教育機関での指導力を合わせて養成し、教員・講師として活躍できるようにすることが望まれている。教育機関での指導力を養成したプロの漫画家が、マンガ専門の高等教育機関の教員・講師としてのマッチングするためにも、指導力評価指標を明確化する必要がある。

以上のような点から、当事業では指導者人材養成と認定の方法、マッチングの評価指標（指導者認定）について調査検討を行った。

調査検討の結果、案として策定した教員・プロの漫画家の指導者としての養成・認定方法とマッチングの評価指標は、日本漫画家協会、デジタルマンガ協会等漫画家団体にも内容を検討いただくとともに、教員向けデジタル作画教習研修プログラムの実証、プロの漫画家向けデジタル作画指導者養成講座の実証で検証し、またマンガ職域プロジェクト（2）にて、マンガ専門の教育機関マンガ専門の専門学校・大学 94 校、マンガを教える高等学校 26 校、合計 120 校（デジタルマンガ キャンパス・マッチ参加校）に評価アンケートを送付、48 校からの回答による評価を得た。

以上によって、策定した教員・プロの漫画家の指導者としての人養成・認定方法とマッチングの評価指標は、次年度以降の教員の養成、プロの漫画家への教育機関での指導力の養成、教員・講師として活躍するための教育機関とのマッチングに、有効に機能すると考えられる。養成・認定方法とマッチングの評価指標を活用して、プロの漫画家のデジタル作画学習普及を進め、さらに教育機関での指導力を養成し、教員・講師として教育機関とのマッチングして、教育機関の『デジタル作画の指導ができる』教員の不足を解消、デジタル作画普及の好循環系を築いていきたい。

◆デジタル作画を指導するマンガ専門高等教育機関教員の養成方法、
漫画家の指導者としての養成方法、教員・講師としての漫画家とマンガ専門高等教育機関との
マッチングの調査検討報告書

(1) マンガ専門の高等教育機関の課題：指導人材の不足

平成 26 年度調査のデジタル作画学習システムのカリキュラム評価調査(マンガ関連の教育を行う教育機関 315 (専門学校 160 校、大学 155 校) と、学生マンガ作品コンテスト「デジタルマンガ キャンパス・マッチ 2014」(<http://www.digital-manga.jp/>) 実行委員会の協力による同事業参加の 71 校のマンガ関連教育機関教員に確実に届く教員リストによって 41 校 (専門学校 24 校、大学 17 校) の回答を得た。

その中で、マンガ関連の教育を行う大学・専門学校等教育機関のデジタル作画学習システムの導入状況として、34 校中 30 校がデジタル作画教育を行っており、25 校が今後強化していくと回答。デジタル作画ツール導入校は 31 校、うちマンガ専用ツール導入校は 25 校であった。

本事業で昨年度開発したデジタル作画学習システムのカリキュラムの評価と導入状況について、18 校が一部有効と評価、24 校がすでに一部行っていると回答した。導入した方がよいが、難しいとの回答が 4 校あり、課題となるのは時間が足りないこと、テキストやノウハウがないこと、ついで指導者人材がないこととなった。

昨年度は、これに対応して、産業界におけるマンガのデジタル作画スキルへのニーズ調査と大学・専門学校等教育機関のデジタル作画学習システムの導入状況を照らし合わせ、すでに一部行っているというカリキュラム内の科目を考慮して優先的に導入すべき科目を選定し、その科目のテキストを作成、教育機関に配布してノウハウとして共有、教員向けテキストで指導者人材の指導力を養成できるようにしたが、指導者人材の不足を解消するためには、現況の教育機関の教員の養成を行った場合の評価指標、また現況の教育機関の教員の養成のみでは足りないと考えられるので、デジタル作画を習得したプロの漫画家が、教員・講師として教育機関とのマッチングして、教育機関の『デジタル作画の指導ができる』教員の不足を解消することが必要と考えた。

(2) 本年度調査：拡大するデジタル作画学習システム導入教育機関

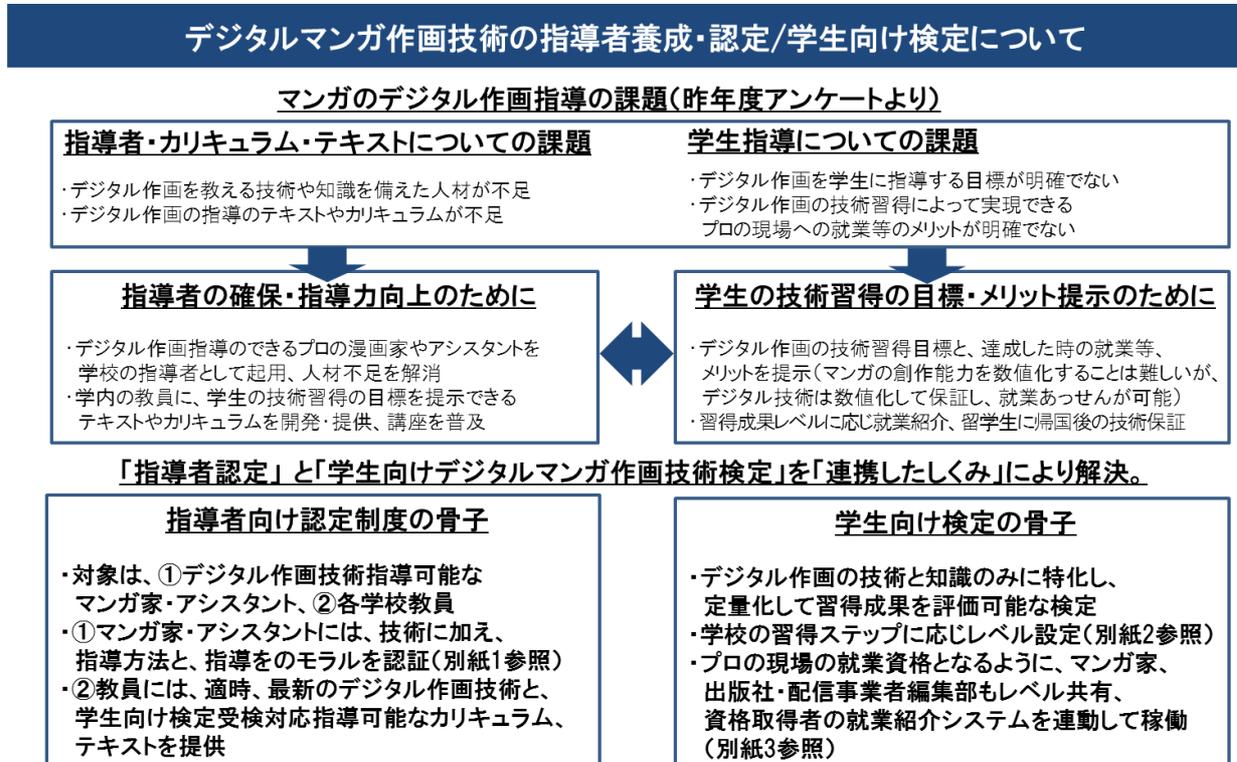
今年度は、マンガ専門の専門学校・大学 94 校、マンガを教える高等学校 26 校、合計 120 校 (デジタルマンガ キャンパス・マッチ参加校) に送付してアンケート調査を行い、48 校より回答をいただいた。昨年度は 41 校から 7 校増え、平成 25 年度回答校からの 3 校、平成 26 年度回答校からの 22 校に加え、新たに 23 校の学校から回答があった。特に、情報系とビジネス系の専門学校 9 校から新たに回答があり、マンガ教育が情報・ビジネス系に広がっていると考えられる。また、3 年間のアンケートの累計では、65 校から回答のうち、そのほとんどの学校がデジタル作画教育を行っているので、全国展開するグループ校を合わせると約 80 校がデジタル作画教育を行っていると考えられる。

今年度調査の、「デジタル作画教育を今後どう進めていこうとされているのでしょうか?」という問いには、「強化していく」との回答が 48 校中 34 校 (71%) ある。今のままでよいと回答した 9 校のうち 8 校が情報・ビジネス系で、Photoshop 中心のカリキュラムでよいと考えているが、ある情報・ビジネス系専門学校は、現在は Photoshop しか教えていないので、今後はクリップスタジオペイント EX と Pro を導入したいと考えており、「強化していく」と回答ととらえられる。

このように、今年度調査でもマンガ専門の高等教育機関、またそこでのデジタル作画学習システムはを行う規模は拡大しており、ますます指導者不足の課題解消は急務となっている。

(3) 指導者人材養成と認定の方法、マッチングの評価指標（指導者認定）の検討

拡大するマンガ専門の高等教育機関のデジタル作画学習システム導入における、指導者・カリキュラム・テキストの不足といった課題に対して、学生指導についての課題も同時に検討しつつ、指導者人材養成と認定の方法、マッチングの評価指標（指導者認定）について下記のような方向づけを行った。



業界(デジタルマンガ協会・日本漫画家協会・コミック出版社の会)共同で、学校での指導、学生就業に関わる方向を検討。

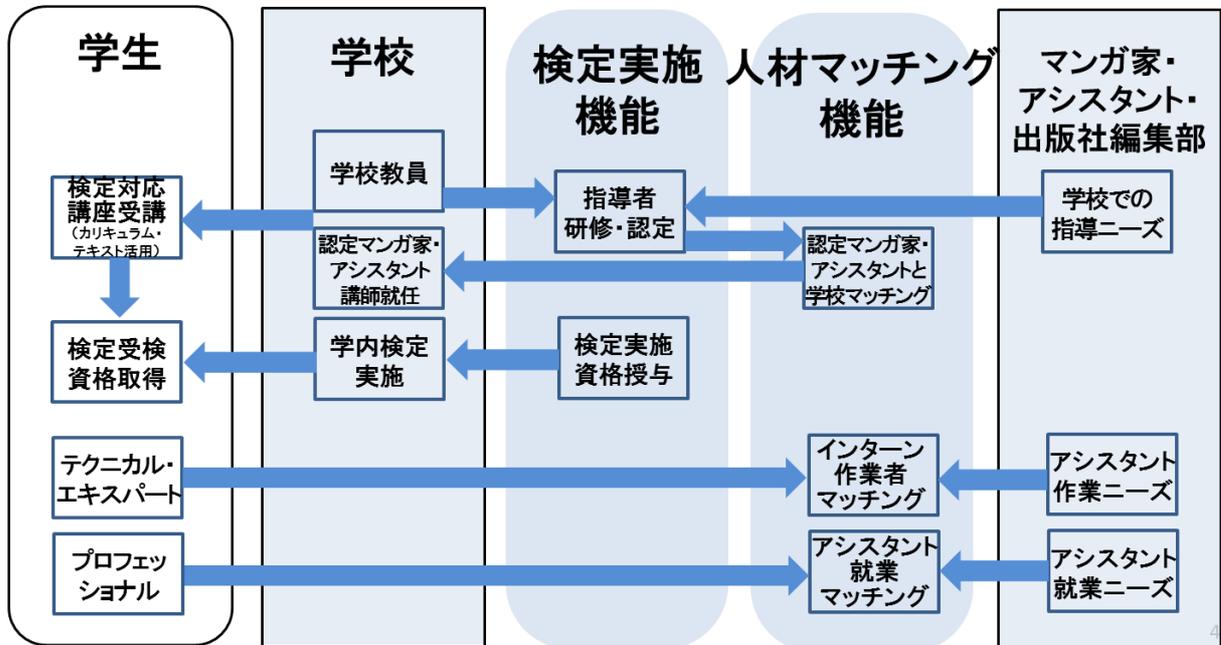
認定指導者は、認定カリキュラム・テキストにより、学生向け検定受検対応講座を担当できる仕組みを検討。
 受講した学生は、学内の修了試験によって検定受検・資格取得可能、取得後はインターンや就業紹介を受けられる仕組みを検討。
 (将来は、マンガ以外の業界就業を想定したコミックイラスト、アニメ業界に対応したアニメーター(動画・原画)検定も開発)

(4) 指導者人材養成と認定、マッチングによって形成するデジタル作画普及の好循環系

プロの漫画家のデジタル作画学習普及を進め、同時に教育機関の教員の指導力を養成、デジタル作画習得したプロの漫画家を指導者として養成し、教員・講師として教育機関とのマッチングする評価指標を指導者認定として明確化することで、下記のようなデジタル作画普及の好循環系が形成され、教育機関の『デジタル作画の指導ができる』教員の不足が解消されるものと考えた。

別紙3: 認定指導者の学校での指導/資格取得学生のインターン・アシスタント就業あっせん

- ・指導者の学校での指導/資格取得学生のインターン・アシスタント就業あっせんは、マンガ家・出版社編集部からなる業界（デジタルマンガ協会・日本漫画家協会・コミック出版社の会）に協力いただき、学校での指導、学生の就業に関わっていただく方向で検討中。
- ・学校での指導を希望するマンガ家・アシスタントに、指導者研修・認定を受けていただき、指導者を求める学校とマッチング。
- ・認定指導者は、認定カリキュラム・テキストにより、学生向け検定受検対応講座を担当できる仕組みを検討。
- ・受講した学生は、学内の修了試験によって検定受検・資格取得可能。
- ・取得学生は、学校をつうじて、マンガ家・出版社編集部からインターンやアシスタント就業の紹介を受けられ、希望すると、審査によりインターン体験やアシスタント就業ができる仕組みを検討。



◆指導者人材養成と認定の方法、マッチングの評価指標（指導者認定）開発報告書

(1)「指導者研修・認定方法案」取りまとめ

教育機関の教員の指導力を養成・認定、デジタル作画習得したプロの漫画家を指導者として養成・認定し、教員・講師として教育機関とのマッチングする養成・認定方法を、「指導者研修・認定方法案」として、以下のようにまとめた。

別紙1:指導者研修・認定の方法案

- ・認定対象は、①デジタル作画技術指導可能なマンガ家・アシスタント、②各学校教員
 - ・①デジタル作画技術指導可能なマンガ家・アシスタントは、下記、技術実技・知識に加え、指導方法と、指導の精神を研修で習得し、認定
 - ・②各学校教員は、適時、最新のデジタル作画技術実技・知識の研修実施、都度、指導方法として、学生向け検定受験対応指導可能なカリキュラム、テキストを提供
- ※認定されたマンガ家・アシスタントが、学校での指導を経験後は、②各学校教員として処遇
- ・認定された学校教員は、学生向け検定受験対応指導講座開講可能、受講した学生を学内の修了試験によって検定受験・資格取得可能

■指導者研修項目と指導者認定の方法案

研修項目	内容	認定方法
デジタル作画技術実技研修	プロのマンガ家・アシスタント向け(初回) ⇒デジタル作画ソフトの機能使用実践、デジタル作画の作業方法の実践、 学校教員向け(2年ごと) ⇒新しいソフトの機能の使用実践、新しい表現技術のデジタル作画の作業方法の実践	模擬授業
デジタル作画知識座学研修	プロのマンガ家・アシスタント向け(初回)/学校教員向け(毎年) ⇒デジタル作画技術概論(解像度、データ形式、入稿形式、入稿方法など) ⇒デジタル作画ソフト・PC/ネットワークの基礎知識(ソフト・PC・周辺機器、ウイルス対策、ネットリテラシーなど) ⇒新しいソフトの機能の理解、新しい表現技術のデジタル作画の作業方法の理解	筆記試験
指導方法研修	プロのマンガ家・アシスタント向け(初回)/学校教員向け(2年ごと) ⇒授業の展開方法(カリキュラムとは、シラバスとは、習得目標と評価方法、課題の作り方、扱い方、解説の仕方、成績の付け方など)	模擬授業/レポート
指導の精神研修	プロのマンガ家・アシスタント向け(初回)/学校教員向け(2年ごと) ⇒教壇に立つということ、学生との接し方(ルールとマナー、出席確認・欠席フォロー、理解力が高い学生の伸ばし方、やる気の出させ方、デジタルが苦手な学生のフォロー など)	模擬授業/レポート

認定方法	内容	認定項目
模擬授業	与えられたテーマについて授業を展開(20分程度)	デジタル作画技術実技 指導方法 指導の精神
筆記試験	研修後に試験実施(学校教員はオンライン受験可能)	デジタル作画知識

認定後提供項目	内容	活用方法
学生向け検定受験対応講座カリキュラム	学生向け検定受験対応学習計画(カリキュラム・シラバス、教材、講座の組み立て、評価ポイントなど)	学内での 学生向け検定受験対応 講座開講
上記 学生向け検定受験対応講座用テキスト	上記に対応した教員向け、学生向けテキスト	上記講座で使用

(2)「指導者研修・認定方法案」のアンケート調査による評価

教育機関の教員の指導力を養成・認定、デジタル作画習得したプロの漫画家を指導者として養成・認定し、教員・講師として教育機関とのマッチングする養成・認定方法として取りまとめた「指導者研修・認定方法案」について、またマンガ職域プロジェクト(2)にて、マンガ専門の教育機関マンガ専門の専門学校・大学94校、マンガを教える高等学校26校、合計120校(デジタルマンガキャンパス・マッチ参加校)に評価アンケートを送付、48校から回答を得た。

これに対する評価は以下のものであった。おおむねの賛同を得たと見える。

Q)プロの漫画家・アシスタントが学校で指導できるようになるための研修・指導者認定も検討しています。実現した場合、研修・認定を受けたプロの漫画家・アシスタントの講師起用について

1. 講師として起用するニーズは？

大いにニーズがあるが10校、可能性はあるが19校、人によるが13校、全体としてニーズが高い。

2. 研修で修得し、認定してほしい指導力は何でしょう

業界に対応したデジタル作画の技術・知識が33校、学生へのわかりやすいデジタル作画の指導方法が30校になっていて、指導の心構え(教え方や教材を工夫するなど)が21校と合わせて、指導者としての専門力と資質を重視している。

デジタル作画を身に付けた学生の就業斡旋の能力が18校もあり、本来であれば学校の就職担当者の役割であるにもかかわらず、その担当者に斡旋能力がないため、その能力を指導者にもとめているといえる。

ある専門学校は、ソフトの使い方指導については、常勤教員で対応できるので、非常勤講師としてのプロのマンガ家には、作品制作の根本的なノウハウの指導に期待したいとのこと。これも貴重な意見で、デジタル作画技術の普及と連動させながら、こういうニーズにも対応していく必要がある。

いわゆるネーム指導ができるマンガ家が講師陣の中にいるかいないかは、デビュー実績づくりの根幹になる。こういうマンガ家を養成はできないので、どう発掘するかではないかと思われる。デビュー実績の高い学校は、このネーム指導がしっかりできる講師を確保している。

3. 講師に習得してほしいソフトは、何でしょう

クリスタペイントEXが31校、Photoshopが26校、クリスタペイントProが17校になっている。LightWave3Dは3校が、希望している。

